



妻と息子の  
順応力はすごい。

玄関が  
賑やかになった。



あの頃と変わらない  
朝の風景がある。

力を発揮できる、  
新しい場所がある。

Cグループ話題提供

## ASAGOiNGな仲間を増やす移住推進

あなたはまちの未来  
**ASAGOiNG**



子供とふれあえる  
時間も増えたみたい。

夫が働く音も、  
暮らしの中に。



息子のこんな笑顔、  
いつ以来だろう。

家族みたいなお人たちが、このまちにできた。

# 1

移住推進を取り巻く状況



# 2

移住定住施策の展開



# 3

**ASAGOiNG**な仲間を増やすために

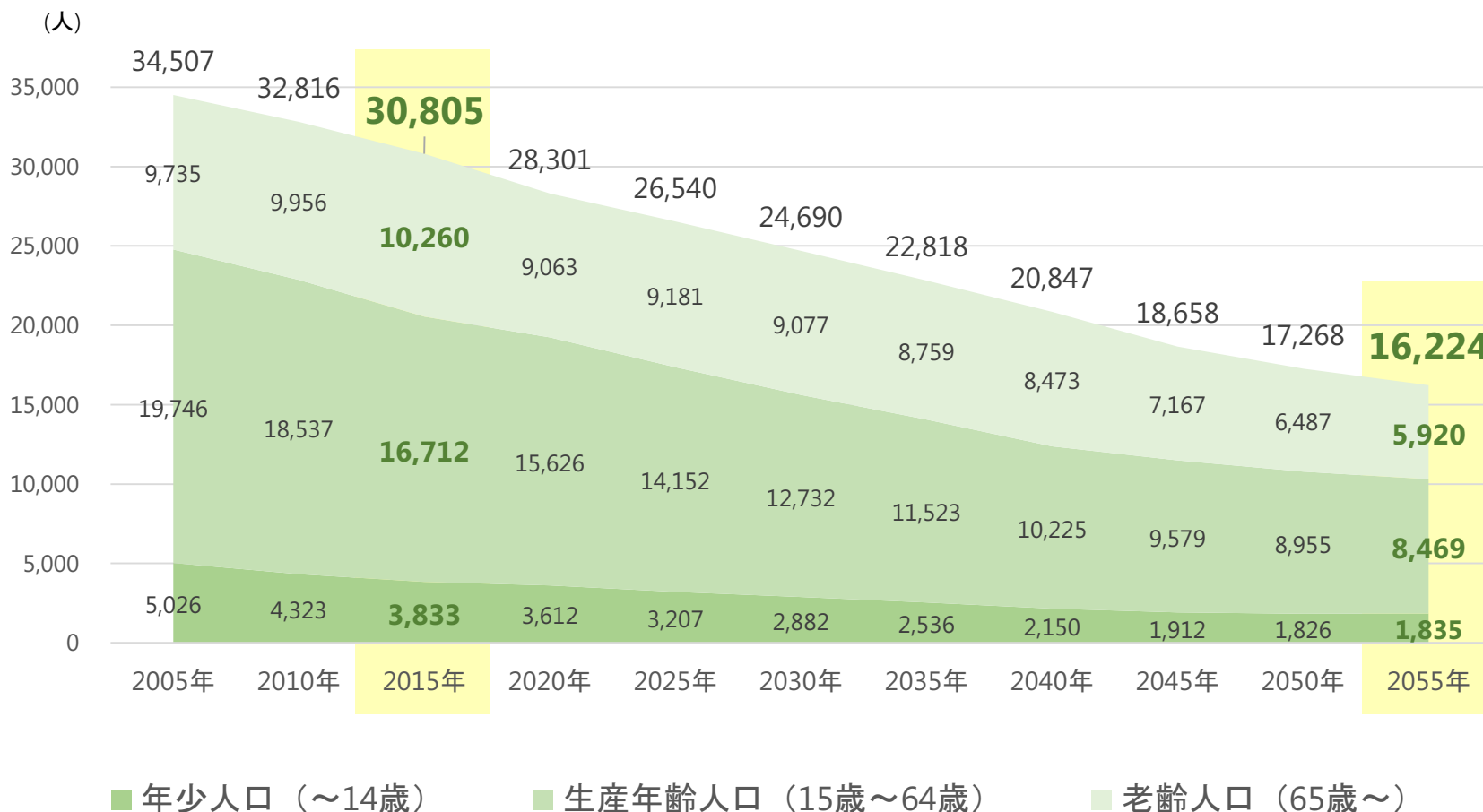
# 1

---

## 移住推進を取り巻く状況

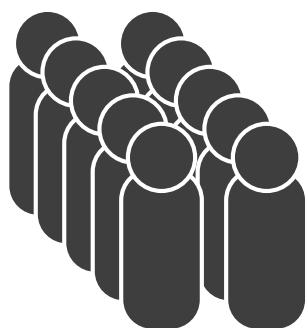
## 朝来市の将来人口推計

(出典：朝来市第2次総合計画後期基本計画)

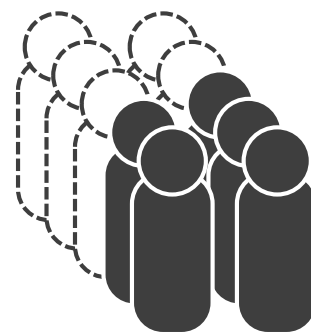


## 2015年→2055年 人口比較

(出典：朝来市第2次総合計画後期基本計画)



**30,805**人  
2015

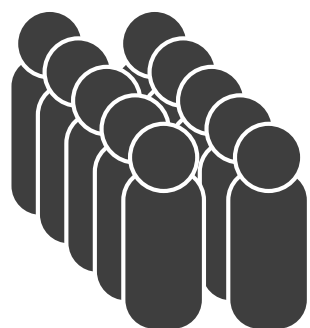


**16,224**人  
2055

このままでは**40**年で人口が約半分に

## 人口目標

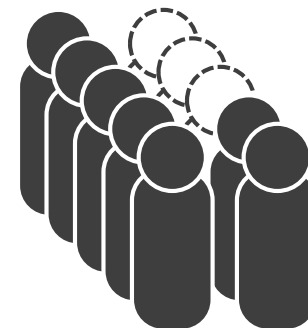
(出典：朝来市第2次総合計画後期基本計画)



**30,805**人  
2017



**28,500**人  
2021

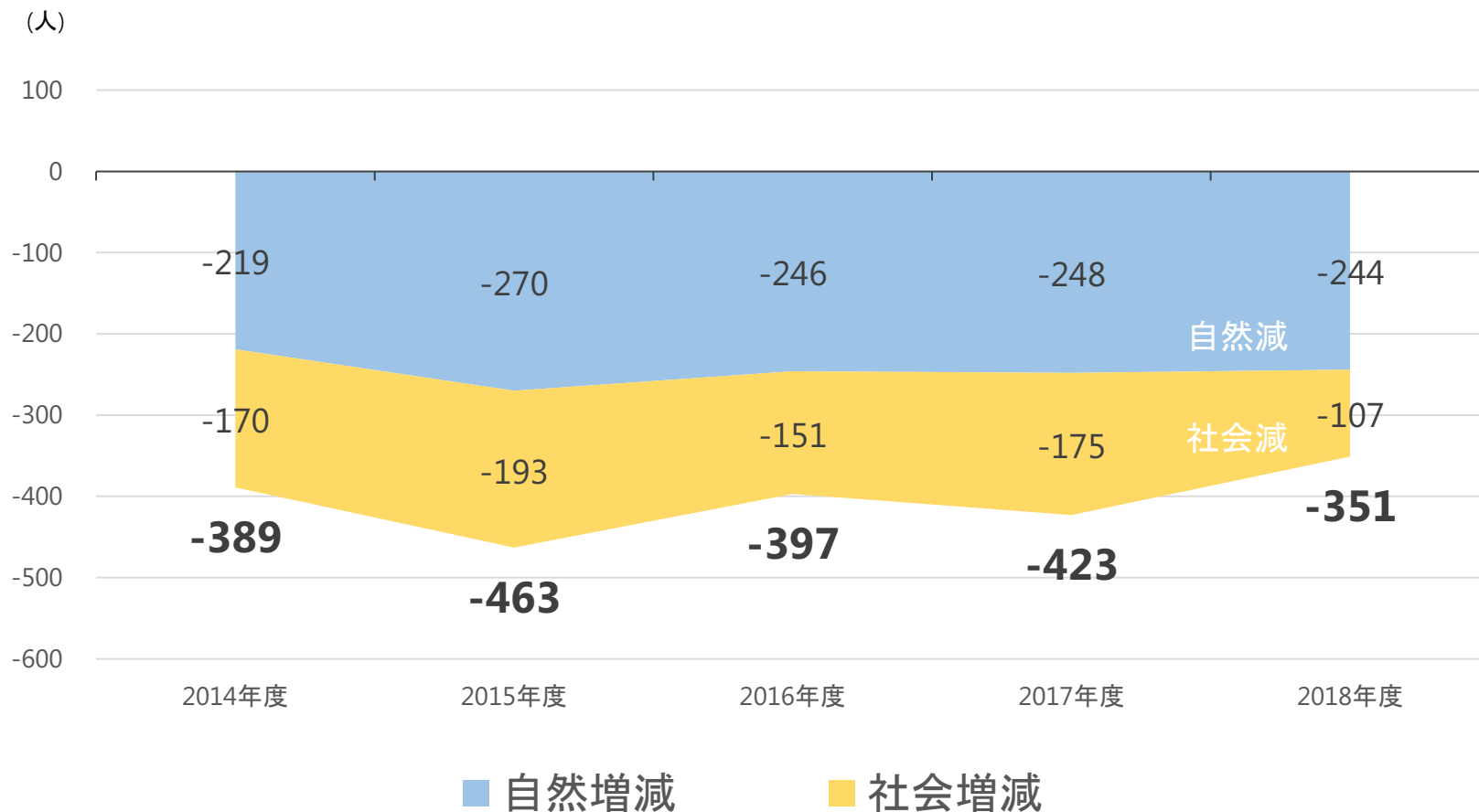


**20,000**人  
205X

なんとかして21世紀の中頃には20,000人を維持しよう

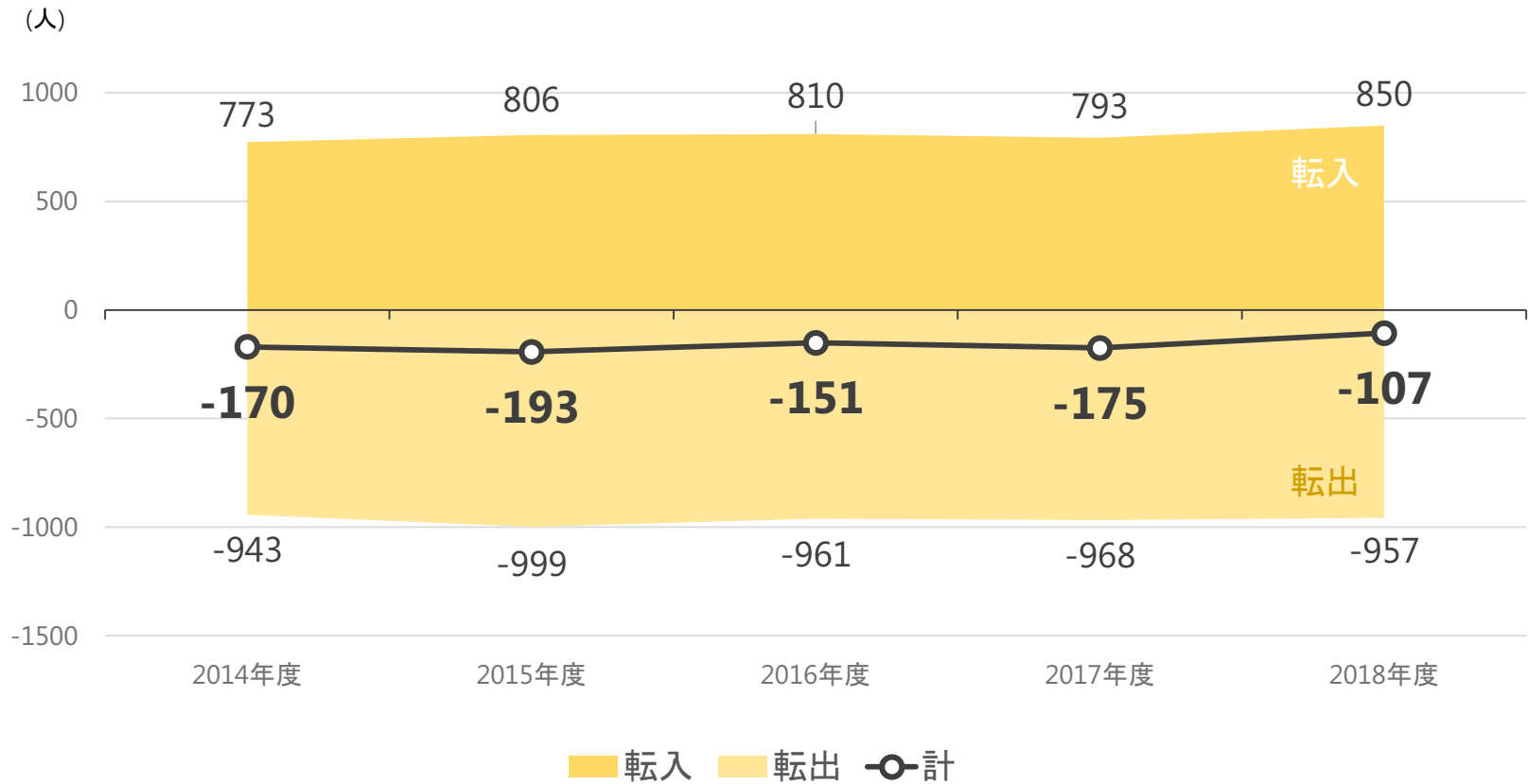
## 年度ごとの人口増減

(出典：兵庫県推計人口、2014・15年度は国勢調査による人口増減の補正のため参考値)



## 年度ごとの社会増減

(出典：兵庫県推計人口)

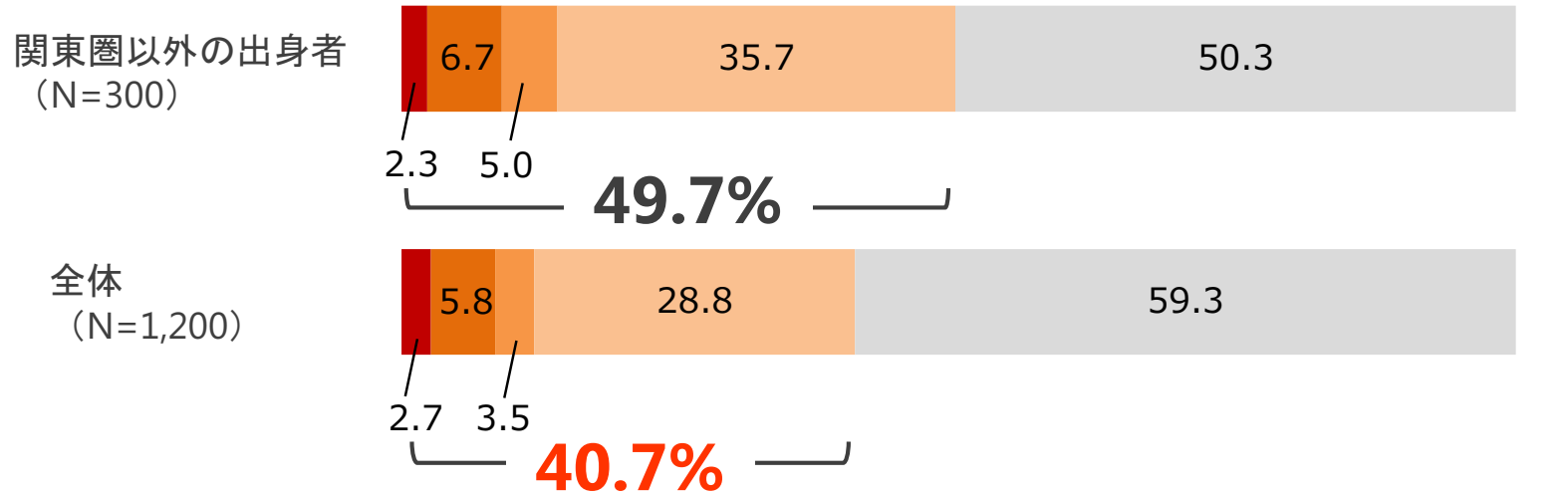


社会減をできるだけゼロに近づける



## 都市在住者の移住に対する意識

(出典：内閣官房「東京在住者の今後の移住に関する意向調査」)



- 今後1年以内に移住する予定・検討したいと思っている
- 今後5年をめどに移住する予定・検討したいと思っている
- 今後10年をめどに移住する予定・検討したいと思っている
- 具体的な時期は決まっていないが、検討したいと思っている
- 検討したいと思わない

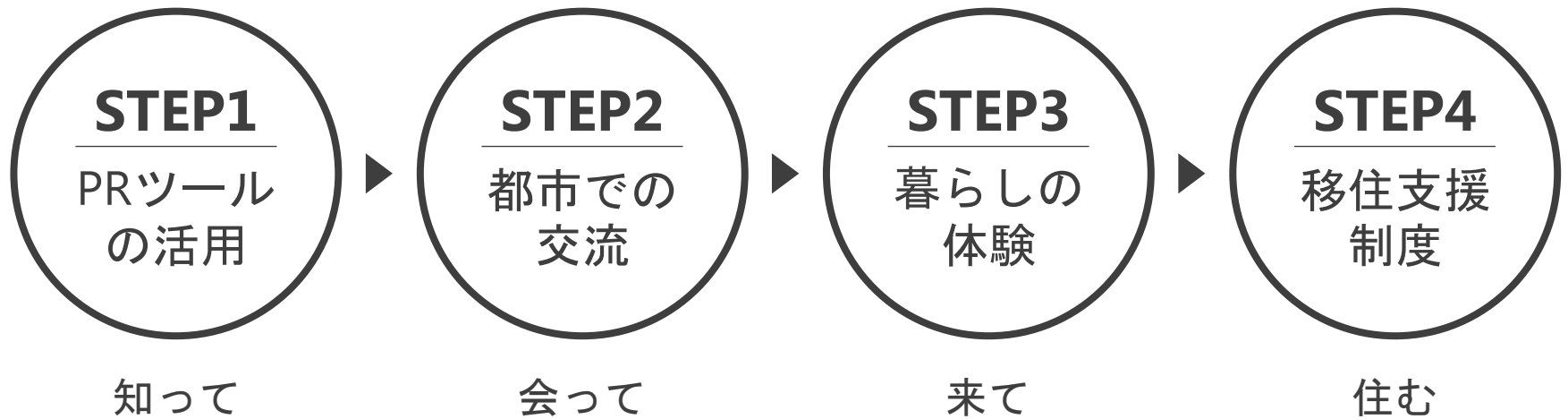
東京在住者の4割が、地方移住を予定・検討したいと考えている。

# 2

---

## 移住推進施策の展開

## 移住施策のパッケージ

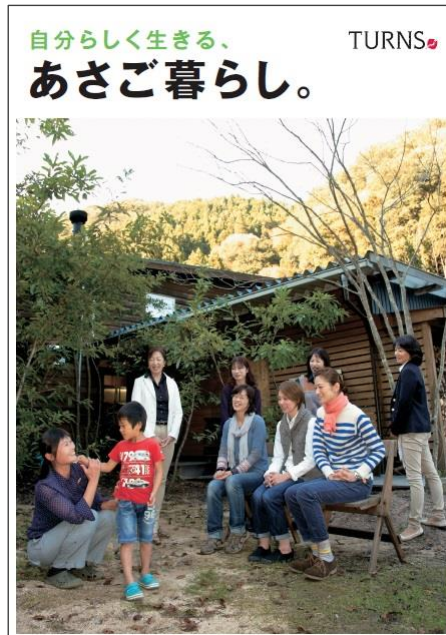


# STEP1

---

## PRツールの活用

## STEP1 PRツールの活用



移住関連パンフレット  
左：あさご暮らし。  
右：移住・定住サポートガイド

朝来市で暮らす人の  
生活模様が  
感じられるイメージを採用

移住相談窓口を設置  
ふるさと回帰センター  
カムバックひょうご  
総務省移住・交流情報ガーデン

## STEP1 PRツールの活用



### あさご暮らし。

<https://www.facebook.com/asago.city.teijuu>



移住希望者向けに、イベントや支援制度、暮らしの情報を発信



### U・I・Jターンの総合窓口

<https://www.city.asago.hyogo.jp/cp/>



市のWebページにある移住定住に関する情報を一括掲載

# STEP2

---

## 都市での交流

## STEP2 都市での交流



移住フェアに、先輩移住者やキーパーソンとともに出展  
パンフレットやインターネットを見た移住希望の方と移住相談



## STEP2 都市での交流



大阪や神戸で“ASAGOiNGカフェサテライト”  
ASAGOiNGな人とともに、テーマを設定し開催

# STEP3

---

暮らしの体験

## STEP3 暮らしの体験



朝来市で“あさご暮らし体験会”を開催  
農やDIYなどのテーマのもと、地域の人々との交流も実施

## STEP3 暮らしの体験



本気度の高い希望者向けに「あさご暮らし体験住宅」を用意  
地域との関係性を持ちながら“あさご暮らし”を体験

# STEP4

---

## 移住支援制度

## STEP4 移住支援制度

---

### 朝来市空き家バンク

40件前後の空き家物件をWeb上に常時掲載

### 住宅の新築・取得・家賃費用の補助金

取得補助：最大90万円 家賃補助：最大12万円

### 空き家活用のためのリフォーム補助金

補助率1/2 最大60万円

### 新たに起業するための補助金

補助率1/2 最大200万円

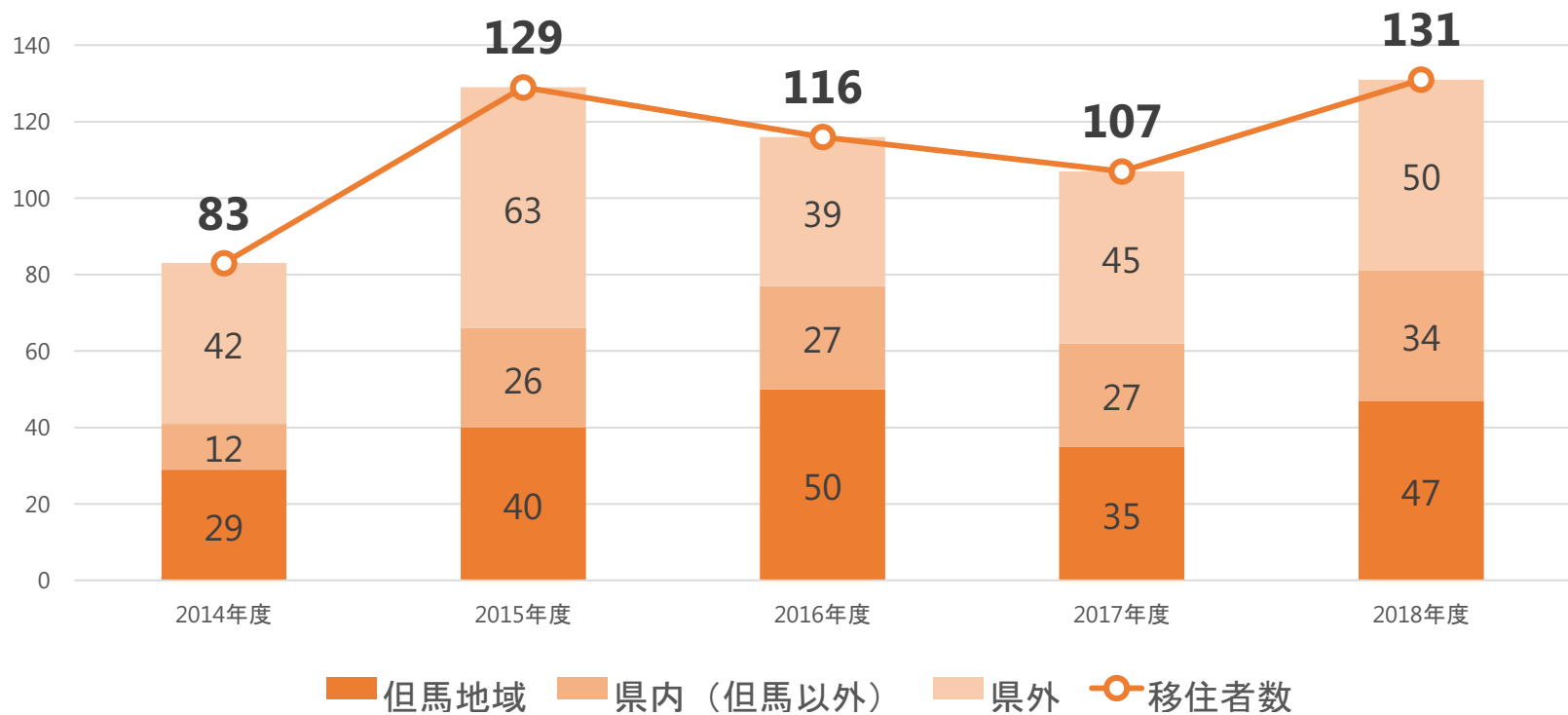
### ジョブサポあさご（就業支援）

通勤圏のハローワークと相互情報共有

### 移住者への“すまい”や“しごと”の支援

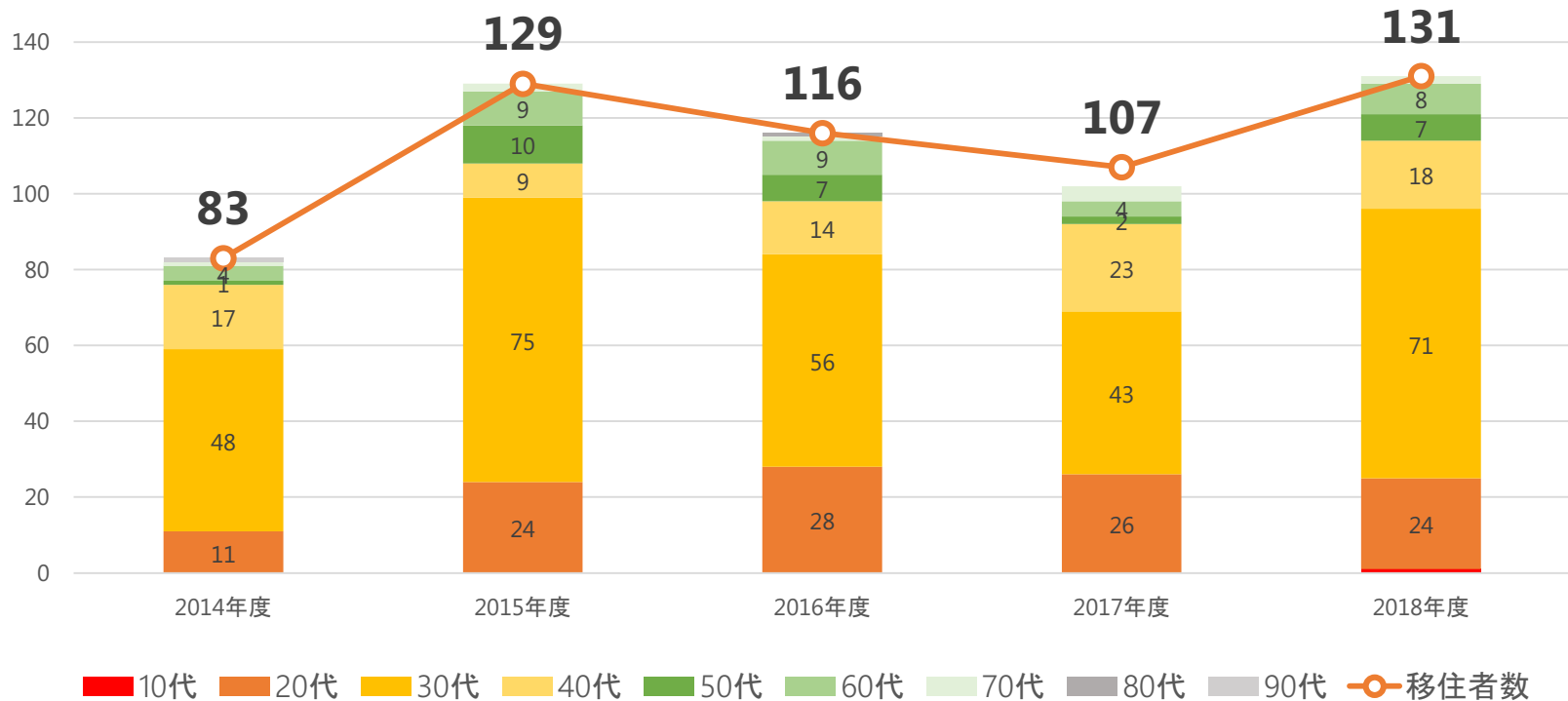
## 市外からの移住者数（転入元別）

（朝来市の窓口や制度等を利用することで認識した転入者数）



## 市外からの移住者数（世帯主の年代別）

（朝来市の窓口や制度等を利用することで認識した転入者数）





## 朝来市への移住者の傾向

県内からの移住者



**60~70%**

若者・子育て世代



**60~70%**

# 3

---

## ASAGOiNGな仲間を増やすために

地域にいかに溶け込んでもらえるか

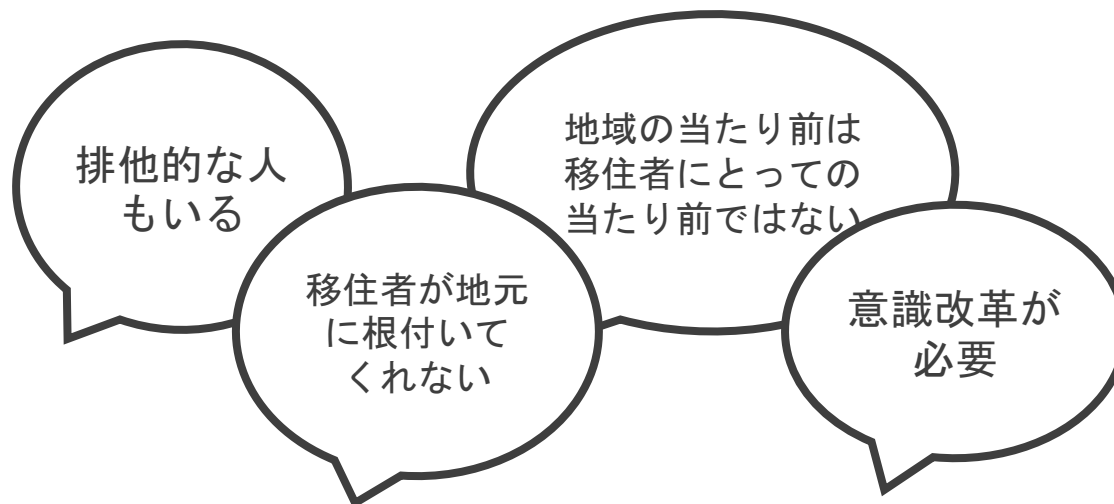
そのためには、地域の理解が不可欠



地域の「受入体制」を構築する必要がある

## 第1回未来会議での意見

「受入体制づくり」が不十分である  
という意見が多数あった



## あさご暮らし移住サポーター



HAPPY ASAGO LIFE

# あさご暮らし 移住サポーター 募集

移住希望者や移住者と交流しながら  
「あさご暮らし」を楽しくサポート！  
サポーター同士の交流も深まって仲間も増える！

あさご暮らし移住サポーターとは？  
朝来市への移住をサポートするために生まれた制度です。住まいのこと、仕事のこと、日々の暮らしや地域のことを移住希望者や移住者と一緒に学ぶ機会がほしい、そんな方をフォローし、移住者の困りごとや不安、移住後に安心して地域生活ができるようボランティアで移住サポート活動をしていただく制度です。

朝来市 いっね！

お申し込みは ウラ面へ

**具体的な活動 ① 情報サポーター**  
情報発信でサポート！  
ちょっとした日々の暮らし情報を、あなたのSNSで発信！

**具体的な活動 ② 住まいサポーター**  
住まいの情報提供や空き家案内サポート！  
地域の空き家の情報や設備での空き家の案内、リフォーム情報の提供！

**具体的な活動 ③ 子育てサポーター**  
子育て情報の提供案内でサポート！  
こども園・学校や、近くの病院の案内、子育てサークルや身近な遊び場などの紹介！

**具体的な活動 ④ 地域サポーター**  
地域ならではの暮らしのサポート！  
日々の買い物や、地域内、地域行事など暮らし情報の提供！

**具体的な活動 ⑤ 移住先輩サポーター**  
先輩移住者の視点からサポート！  
先輩移住者として暮らし情報の発信やアドバイスで移住のお手伝い！

**その他にも…**  
他に社会情報の提供、就業情報や家賃の調査、生活などに関する移住相談や、移住相談イベントに参加していただくなど、皆さんにできる範囲での移住サポートの活動です。

ASAGOing お問い合わせ先 朝来市 あさご暮らし応援課 TEL 079-672-1492  
E-mail teijuu@city.asago.lg.jp

移住者が日々の暮らしや地域のことを相談できる、ボランティアによる「移住サポーター」の研修や交流会を実施

## 黒川区の実践



区の有志が集まって、いなか暮らしがしたい人をサポート  
リピーターも多い

# 与布土地域自治協議会の取組

(出典：但馬の情報誌T2 Vol.109)

*Tajima Design*

**VOICE**

昨年7月に地域おこし協力隊として与布土地区に移住してきた田口亮さん。与布土地域自治協議会に所属し、但馬農産物の専任スタッフや法人組織の立ち上げ支援などを行っている。農業や創作放牧地の問題に関心があり、大飯所で資料メーカーに勤めながら週末に農業の専門学校へ通っていた田口さん。全面で活動拠点を探していたところ、地域のイベントに参加して住民と触れ合うなかで、まちの雰囲気と人柄の良さを感じて与布土への移住を決心。'向'に与布土地域には若手の移住者もおられて、移住者同士が交流する場が多いので孤立しにくいのかなという安心感もありました。現在はいるんなグループに入っていて、バドミントンをしたり与布土マーケットをしたりと退屈しない日々を過ごしています。与布土以外からの参加者も多く、地域を越えた繋がりがあるのもこのまちの魅力です。と田口さんは話す。

今後は前期の経験を活かして、若い農業用施設に防虫塗料を塗ってリフォーム販売することも計画している。'まちの良さ'を発信して、移住者や交流人口を増やしたい。人が増えれば農業の活性化に繋がる可能性もあるので、1つの問題点を1つとして解決していく考えもあっていきたいと思います。そのためにも僕が感じたのと同じ様に、皆さんにも居心地の良さを感じてもらえるポイントをもっと作っていかねばならないですね。地域の魅力を発信する活動はまだ始まったばかり。

【関】与布土地域自治協議会 079-676-3030

田口 亮さん

(左)自治協議会が主催する1泊2日のイベントわくわくキャンプ。川遊びやバドミントン、オオサンショウの観察やナイトウォークなど、大人子どもで楽しむのが目的の交流イベント。財市と布土小学校体育館を利用して、自然、スポーツを楽しむ「生活と遊び」のイベント。

(右)人と人との交流を目的に、財市と布土小学校体育館を利用して、自然、スポーツを楽しむ「生活と遊び」のイベント。



## 自分の思いが伝えられる安心感 子育て移住者や若者たちが いきいき暮らせるまちづくり

**『若者の声を真実化  
「与布土発掘プロジェクト」』**

与布土地域では、移住者や地域の若手メンバーが集まり、意見を伺い実現していく「与布土発掘プロジェクト」の取り組みも行われている。旧与布土小学校を利用してマルシェを開催するほか、部活動の場にはバドミントンやサッカーを要する時間を確保し、移住者にとっても住民と交流の場になっている。

「集まろう話そう」という行事意識が生まれるので、若しめの共有意識を醸成してあげたい。対話」を大事にしています。若い人たちの



移住者マーケットの様子

## 地域全体が遊び場！ 自然遊びから心を育む

**Pickup  
照福こども園**

「この環境をいかした保育をしたい」と、自然の中で学びを大切にすることを掲げ、園児たちはまちで地域全体が遊び場になるように、園児に広がる山や川で生物観察などを楽しく進め、園児は子どもたちがその中で感じる発見や気づきに寄り添い、1人1人の思いを支えることを心がけている。

自然遊びの他にも、地元農家の協力で田植えや稲刈りといった本格的な農業体験も行っている。苗を植えることから園児たちが行い、採れた野菜は給食で口にすることもあり食に関しても学ぶこともできる。

「日々の保育について職員間で何度も話し合います。いろんな視点で意見交換をすることで、自然の保育の場取りにもなる」とは、主任保育士の藤本さん。話し合い以外でも、園児の成長を促すために職員が感じたことを「エピソード記録」として毎日紙に書きつけて共有。気づきの良いツールになっており、職員が子どもたちから学ぶことが多いと口を揃える。また、園児は卒園した子どもたちが自由に遊べる場、「放課後児童クラブ みんなのおうち」を設けている。昨年建物が完成し、多くの子どもたちが「あたいま」と呼ぶところののだそう。

「みんな遊んでみんな楽しい。社会に出て人もそれぞれ違うことを受け入れて生活できる子どもに育てたい」と石田園長。子どもたちの主体性を大事にする地域のこども園では、今日も元気に笑顔が育っている。

石田 保寿さん

川遊び

田植え体験



思いを上手に引き出し実現できる体制があるのは与布土の強み。こまめにASAGOINGの考えを地域全体で取り組んでいるところはまだまだ少ないと思います。地域住民の意気込みを大切にしたいです。

**子育て移住者に人気  
地域でこどもを育んでいく**

豊かな自然に恵まれた地域でも、子育てを育んでいくという考えが根付くも与布土地域。一面緑のまもなく、農地体験や川遊びといった自然にふれあうことを積極的に取り入れ、子どもを遊ばせたいという思いを馬内へ移住する家族も少なくない。

「まへ、小学生を対象としたイベント「わくわくキャンプ」も人気。協議会発足当初から毎年実施しており、与布土発掘プロジェクトのメンバーを中心に移住者もスタッフとして参加している。住む前の地域交流を促す良いイベントとなっている。」

小学校が施設にも変わっており、近年、住民の意識も変わってきたと思います。地域に子どもが育んでいける環境づくりが期待されています。実際に子育て世代の若手移住者が増えたり、子育て家はずっと増える

**ASAGOINGとは**

「ASAGOINGとは？ 移住者や若者がいきいき暮らせるまちづくりを実現する！」

「移住者のウェルビーイングを高め、豊かなまちの未来 ASAGOING（アサゴイング）」の自らのやりたいことを実現しながらまちを創っていくことをASAGOINGの目指すところ。そんな人たちが住みやすいまちを実現するために、協力があるまちづくりとともに、移住者に寄り添っていく考えだ。

【関】但馬の経済市長公設自治協議会 079-672-6110

但馬市議会議員 高島 紀子さん

「地域法人の設立は、地域の未来を担う大事なこと。農業が活発になれば産地の生きかたも変わります。若手の産地と継承者育成の仕組みづくりは移住者視点でも重要なことです。課題解決のために、地域神社として、まち全体を取り組んでいきたい」と、自治協議会会長を兼ねた石田さん。

「地域法人の設立は、地域の未来を担う大事なこと。農業が活発になれば産地の生きかたも変わります。若手の産地と継承者育成の仕組みづくりは移住者視点でも重要なことです。課題解決のために、地域神社として、まち全体を取り組んでいきたい」と、自治協議会会長を兼ねた石田さん。

移住者や地域の若手メンバーの「こんなことがしたい」を実現する『与布土発掘プロジェクト』

みなさんに考えていただきたいこと

あなたの地域の  
移住者の受入体制の状況は？

**ASAGOiNG**な仲間を増やすために  
あなたの地域では何に取り組む？